

2004年・新春号

## CONTENTS

### 特集 4-7

#### 新春特別対談

(ゲスト) 東京大学名誉教授・  
東京理科大教授 菅原 進一氏  
VS

(社) 日本シャッター・ドア協会会長 岩部 金吾

#### 会長挨拶 2

#### 特別寄稿 3

- ・丹下都市建築設計 副所長 高橋 良典氏
- ・工学院大学 建築学科環境建築コース  
講師 村上 正浩氏

#### ハイライト 8-9

- ・エンドユーザーに、シャッターに関するアンケートを実施!!

#### スポットライト 10

- ・大阪で初のJSDA会員交流会開催!

#### シリーズ

#### 火災安全について考える 11

- ・諏訪東京理科大学 教授 奈良 松範

#### 新会員紹介 12-13

#### ニュース 13

#### ご紹介 14

- ・財団法人ベターリビング

#### データ 15



中:新春特別対談

下:JSDA会員交流会

## 年頭所感

# 2004年(平成16年) 年頭ごあいさつ

社団法人 日本シャッター・ドア協会  
会長 岩部 金吾



明けましておめでとうございます。

旧年中は格別の御高配を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、我が国の経済は、雇用情勢や個人消費においては依然として低迷しておりますが、昨年後半にかけて輸出や設備投資に明るさが戻り回復傾向が現れてきました。

しかし、社会においては、少年による不条理な犯罪が発生する一方、当業界にも関係する建物侵入事犯では、シャッター破りやドアのこじ開けといった破壊行為にまでエスカレートしており、従来の社会常識が通用しなくなった時代といえそうです。

政治面における国会の政党二極化とともに、経済、社会の流れも大きな転換期を迎えているようです。

こうした中で、協会の活動テーマは、防火・防煙といった防災から、防犯などセキュリティに至るまで更に幅広くなっており、会員数においても、昨年初回は120社でしたが、この一年間で57社の入会があり、現時点で177社を数えています。

昨年の活動といたしましては、とくに「防火シャッター・ドアの保守点検の推進」「防犯部品の開発・普及」「防火・防煙ドアの技術基準の策定」などの検討に力を注いでまいりました。

「防火シャッター・ドアの保守点検の推進」では、新宿雑居ビルの火災でも明らかのように、いざという時の安全性を確保するには防火シャッター・ドアの日常の保守点検が不可欠であるため、その重要性を国土交通省にも強調してまいりましたが、現在、建築基準法上の「特殊建築物定期調査報告制度」の運用強化のなかで<定期調査業務基準>の改定が進められており、特にその項目として明

示される運びになりましたことは大きな前進といえます。

また、「防犯部品の開発・普及」については、既に周知のとおり警察庁、国土交通省が中心となって「防犯性能の高い建物部品の開発・普及に関する官民合同会議」が設置され、ひき続き、防犯性能試験などが実施されていきますが、この結果は、今年3月に「防犯性能の高い建物部品の目録」として公表される予定となっております。問題が深刻化する一方の防犯問題に関しては、我が国でも具体的な防犯抑止性能をもって対応する時代となってきました。協会は、「官民合同会議」を受けて今後これらの事業を自主的に推進してまいります。

このほか「防火・防煙ドアの技術基準の策定」に関しましては、一昨年、エレベータ乗場戸前の複合防火設備として鋼製開き戸、鋼製折りたたみ戸の大臣認定を取得しましたが、協会としては、これら防火・防煙ドアを階段室などすべてのたて穴区画において遮煙性能が確保できるよう、自主的な基準にもとづく評価制度を推進してまいります。

シャッターに比べて、特に防火ドアは、製造・施工者名等ブランド表示もされていないこともあり社会的認識が低い面がありますが、製造者責任、安全性の維持・管理という観点からも、今後の重要な検討課題であると考えています。

今年も多くの課題が山積しておりますが、公益法人として社会の要請に応えていくべく、全力を注いでまいりますので、皆様方からの変わらぬ御指導御支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

2004年 元旦

## 特別寄稿

# これからの防災設備に要求されること

丹下都市建築設計  
副所長 高橋 良典



地球環境問題に対応し省エネ、建物の長期維持化の流れや都市空間から建築空間にわたり広い範囲でバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化が要求される時代になっている。人々の安全、資産や資源の確保が職能とされる建築設計に携わる者として今まで以上に意識を高めなければならない。

近年地震に対しての関心が高まる中で地域、地区における防災システムの必要性が感じられる。現在の防災設備は複数の行政の基での建物単体の基準であり、今後隣り合った建物相互間や、街区に対しての行政、民間とが一本化されたシステムの整備が必要と思われる。また、建物が大型化や複合化し、これに伴い空間構成が複雑になりがちになるが防災設備のシステムはシンプルで解りやすいものが望ましい。警報設備、消火設備や避難設備等各ア

イテムを総合的に監視可能なシステムも普及してきており、かなり水準が高くなってきていると思われるが、過去の不幸な事例を振り返ると結果的に人為的な要因によるものが多く見られる。経済性、運用の問題はあるが人為的ミス無くするための日常の維持管理システム（自動の保守点検警戒システム）があれば発生率を低く抑えることが出来るのではないかと。

また一方で、利用者の防災に対する意識を高めることが必要と思われる。建築設計に係わることで言えば、シャッターや防火戸等の避難設備を分かりやすくし、他の部分とのメリハリを持たせる事により日常的に利用者の意識を高めたり、法規を満たすだけでなくスペースにゆとりある計画をすることにより利用者に非常時の安心感を与えることができると考えている。

## 特別寄稿

# 学校施設の防犯対策のあり方

工学院大学  
建築学科環境建築コース  
講師 村上 正浩



大阪教育大学附属池田小学校で起きた児童殺傷事件は社会に大きな衝撃を与えた。あれから2年、またしても宇治市立宇治小学校で傷害事件が発生した。学校施設の防犯対策のあり方に再び警鐘が鳴った。

近年、多くの学校は、「開いて守る」を基本とした学校づくりを進めており、事件が起こった宇治小もそうした学校であった。学校を「開く」のであれば、それに見合った防犯対策が必要となる。通常、塀やフェンスを整備したり、防犯カメラ等の防犯設備を設置したり、警備員を常駐させたりといった対策がとられている。こうした対策は非常に有効であるが、コスト等を考えると当然限界があるし、仮にこれらを強化して学校の安全性を高めようとするれば、学校は「刑務所」のようになってしまう。では、どうすればよいのか。従来の防犯対策は程々にし、CPTED（Crime Prevention Through Environmental Design：環境設計による犯罪防止）の視点を学校づくりに導入してはどうだろうか。CPTEDの基本的な考え方には、①監視性の確保（多くの人の目や周囲からの見通しを確保する）、②接近の制御（犯罪者を近づきにくくする）、③領域性の強化（自分達のテリトリーだという意識を高める）があり、欧米では学校施設の防犯設計や安全管理にCPTEDの考え方を広く取り入れている。我が国でもそうした試みが増えはじめ成果を見せつつある。「塀のな

い学校」で有名な千葉市立海浜打瀬小学校がそうである。

打瀬小は、周囲を中層マンションに囲まれ、マンション居住者の視線によって常に守られるように計画されている。実際に不審者がむやみに校内に侵入しようとする直ちに学校へ通報がくる。校舎は教室の壁をなくして内部の見通しをよくするとともに、中心にある中庭を囲むように教室を配置し、どの教室からも中庭を見渡せるようにしている。打瀬小には防犯カメラはないが、こうした計画上の工夫により監視性を確保している。そして授業時間中は、外部からのアクセスを職員室・校長室・事務室のいずれからも見渡せるように計画された進入路に限定することで、外部からの接近を制御している。また打瀬小は学校を地域へ積極的に開放しており、校内では様々な地域活動が行われている。学校が地域のコミュニティの場となり、地域のシンボルとなっている。地域の人々の学校への愛着も深まっており、これが領域性の強化につながっていく。

打瀬小を訪問した人はいう。「打瀬小の子供達は、校内で明るくのびのびと過ごしていた」と。それは、学校には塀や防犯カメラはないが、常に「守られている」という安心感が子供達にあるからではないだろうか。今後、「開いて守る」学校づくりには、CPTEDによる防犯対策の実践が必要となってくだろう。



## 新春特別対談

ゲスト

東京大学名誉教授  
東京理科大学教授

**菅原 進一氏**

VS

(社)日本シャッター・  
ドア協会 会長 **岩部 金吾**

## 「防火、そして環境・都市の未来とは！」

新春号では、当協会の防火シャッター・ドア保守点検専門技術者認定委員長でもあり、建築防災をはじめ多方面でご活躍されている菅原進一東京大学名誉教授・東京理科大学教授をお招きし、岩部会長と対談していただいた。対談は、保守・点検の促進の話題に始まり、環境問題とリニューアルの関係、さらに都市と生態系との融合という将来ビジョンにまで及び、示唆に富んだ内容となった。

**岩部** 明けましておめでとうございます。今年もよろしく  
お願いいたします。

**菅原** おめでとうございます。よろしくお願いいたします。

**岩部** 昨年秋でしたが、先生が東京大学教授を3月に退官  
され、その退官記念講演会にお招きいただきましたが、  
大変盛況でしたね。私はとくに講演会で、現在では各  
方面で活躍されている先生の教え子の方々が交代でパ  
ワーポイントを使って短い講義をされ、最後に菅原先生  
が講演をされて締め括るわけですが、その流れが何とも  
コミュニケーションを大切にされる菅原先生らしく、温  
かい雰囲気、大変心地よく聴かせていただきました。

**菅原** 恐れ入ります。

**岩部** さて、本日はありがとうございます。先生には多  
方面に亘って大変お世話になっておりますが、現在、当協  
会で最も力を入れている防火シャッター・ドアの保守・  
点検の促進については、何といっても、2001年9月の

新宿雑居ビル火災が大きなキッカケでした。その対策で  
は菅原先生が関係省庁の委員長・会長をされ（「小規模  
雑居ビルの建築防火安全対策検討委員会委員長」〔国土  
交通省〕、「小規模雑居ビルの防火安全対策に関する答  
申：消防審議会会長」〔消防庁〕）、御尽力されたわけ  
ですが、あの火災は、われわれに非常に大きな教訓を残し  
ました。この問題を中心のお立場で検討されてきた先生  
としては、いかがでしょうか。

**菅原** そうですね。新宿の雑居ビル火災についてはいろ  
いろな取りまとめを仰せつかってきたわけですが、当時か  
ら、大きな意味で点検のあり方が根本的に問われている  
のではないかと感じていました。

少しさかのぼりますが、日本が高度成長、そしてバブ  
ル期にかけて膨大なビルや住宅を造ってきたわけですが、  
とくに都心には大小のビルが林立しました。それら  
のビルがいま老齢期に差し掛かっていて、人でいえばお



▲菅原教授

▲岩部会長

医者様の治療が必要な時期を迎えています。しかし、ビルをどう治療して維持させて行くかという体制はまったくできていないのが現状です。何故かと考えると、結局これは、日本が「使い捨て文化」できたからだと思います。点検して維持させるより、壊して新しいものを造る、という方が合理的だと考えてきたわけです。点検して維持するにはコストもかかりますが、そこにコストをかけるコンセンサスが社会の中に出てこなかったのだと思います。

安全に対する取り組み、あるいは環境に対してもそのようなのですが、根本的にはわれわれのライフスタイルの問題に関わってきます。ですから、ライフスタイルのキャンペーンとか、あるいは新しいライフスタイルとは何かということ、それぞれの業種で検討されたら非常に良い方向に行くのではないかと、一連の対策の中で感じていました。

**岩部** なるほど。規制とか制度の前にライフスタイルに訴え、啓もうする必要があるということですね。それと日本の「使い捨て文化」は、確かに、戦後すべてがスクラップ&ビルドの考え方で進んできましたからね。…ただ、日本の場合、建築に関しても「木と紙の文化」ですね。火災にも弱く、すべて焼失してしまうから、また新しく建てることになる。この辺りがヨーロッパの「石の文化」とは背景が違うということはないのでしょうか。

**菅原** それはあると思います。日本では火災はもとより地震、台風とさまざまな災害が起きます。ところがヨーロ

ッパでは災害も日本ほどはなく建物が壊れるということもあまりない。また、冬は寒いから壁も厚く出来ています。ですから、防火、断熱などの技術も発達したと思います。そして、法制的にも商業的にも長命な建物が評価される仕組みが出来上がったのだと思います。日本とはそういう文化の違いがある、という見方は確かにあると思います。

ただ、近年になり、地球環境問題が出てきました。これによって日本もヨーロッパも道はひとつになったと思います。環境問題を考慮した社会を築いていくとなると、いまの日本の「使い捨て文化」がこのまま通用するかどうかという問題があります。いま、それをどう切り替えて行くかという展望はなかなか見えてこないのですが、ヨーロッパから学ぶべきことは結構あるのだろうと見えています。

#### 安易なリニューアルは、環境負荷につながる

**岩部** 最近の話題ですが、東京都心でも汐留や六本木の大型再開発によって既存のビルが空き室化するという2003年問題が取りざたされ、今後、空き室化したオフィスビルをマンションにリニューアルしようという動きもありますね。

**菅原** そうですね。高度成長期にできたビルをリニューアルしようということですが、現実には、現在の耐震基準に合致するかとか、IT対応がどうかなどいろいろな問

題が起きています。しかし、その問題をいかにクリアするか、そういう問題解決のビジョンを示すことが必要なんです。一昔前ですと、それが面倒だからすべて壊して再開する、ということになるわけです。

その一方で、最近のリニューアルの事例を見てみると、リニューアルというのが簡単な内外装の取り替えだけを意味しているように見えます。どうも見える部分だけが重視され、中の部品あるいは設備は二次的に取り扱われているように思います。本来は、そういうメンテナンスを伴う形のリニューアルが大事なのであって、内部の設備も一緒に生かす、という考え方が必要です。その場限りではなく、その後何年維持できるかということが重要で、安易なリニューアルが積み重なっていくと、それが大きな環境負荷につながるわけです。

**岩部** 環境問題まできちんと配慮したリニューアルを実施させるには、何らかの強制力も含めて、誰かがリードしなければならぬと思うのですが、その役割はやはり行政に負うところが大きいとお考えですか。

**菅原** 基本的には必要な人がリードしていけばよいと思っています。そのことを申し上げる理由としては「サービスアビリティ」ということなのですが、いわゆるお客様サービスを最優先するということです。それは御商売をされている企業では当然のことでしょうが、「民」に限ったことではなく、「官」も「学」も同じですが、そういう視点を古（いにしえ）の時代からこれまで歴史的に持ってこなかった。常に上意下達で物事が進んできたわけです。しかし、ここに来て、IT化がそれを急転回させたとは私は考えています。つまり、お客様サービスというものを提供者としてどう考えたらよいのか、何が制約

条件としてあるのか、どのようにそれをクリアするのか、ということを一いち早く察して提供できるかどうかが決め手です。

もうひとつは「リピータビリティ」といっていますが、サービスを受けた方が、良いサービスだからまたお願いしたい、という形で評価が継続されることです。こういう仕組み

は、他に誰かがやらなくとも独自でできるはずなんです。いずれにしても、提供される側に立った考え方で実施に移すこと、それが鍵を握っていると私は思っています。IT化によって、誰がリードするかは、それを必要とする人が誰でも提供できるようになったのではないのでしょうか。

### 大空間の壁に使われるシャッターとドア

**岩部** 先ほど、ビルのリニューアルのお話が出ましたが、建設市場はフローからストックの時代に移行しています。ストック市場では建物や設備の維持・管理が大きなテーマとなるわけですが、これからの時代の都市や建築のあり方はどう変わっていくのか、その辺りのお話をお聞かせいただけますか。

**菅原** そうですね。これは、私の持論でもあるのですが、いままでどおりの都市の在り方では、この先、もたないのではないかと考えています。都市の中で自然というものがこれだけ疲弊すると、ヒトを含めた生態系としての営みが崩壊するのではないのでしょうか。といってもこの先すぐということではなく、50年とか100年先のことだとは思いますが。では、ヒトが生存できるゆとりある生態系を考慮した街、あるいは都市に変えるといっても、いきなり既存のものをすべて壊して造り替えるというわけにはいきません。段階的に替えていくことになるのですが、今ある、ひとつの建設技術的手法でいえば「S I」（スケルトンインフィル）の考え方ですね。つまり、建物の構造体はしょっちゅう壊したり造ったりするものではない、大地と同じ…人工の大地ですね。この中に人が住んだり働いたりする場所が組み込まれる。それも使い方が変わったらすぐ捨てるというようなものではなく、変化に対応出来るシステムにするということですね。こういう手法によって、周辺の自然が土地の中に誘導され、次第に融合するという考え方ですね。これを二つの言い方で表現しています。一つは「自然に寄生する都市」、もう一つはもっと積極的に「農業都市」と言っています。農産物を街の中でつくるという発想です。

今まで、人間だけが都市に集中し過ぎて、効率性や集中のメリットを追求してきたわけですが、それが自然に負荷を与え、環境問題の発生にもつながったわけです。

**岩部** 都市を変える最初の手法は、既存の建物の躯体は壊さず、中を組み替えるということですね。



**菅原** そうです。その時に、建物の内部に組み込まれるシステムとしてシャッターの存在が出てきます。つまり、大空間とこれを区切る壁ですね。壁になるシャッター、というお話は以前にお話したこともあるかも知れませんが、従来には想定されなかった新しい空間が今後生まれると考えてもよいのではないのでしょうか。そういう観点から、新しいシャッターを考えてもよいわけです。

**岩部** 壁に相当するシャッターとなれば、耐火性能はもちろん、素材も、例えば木にするとか、丈夫で、デザインにも優れたバリエーションが要求されてきますね。

**菅原** これまで日本はやはり一種の「軽量文化」だったと思います。先ほどの使い捨てではないですが、私はそれを「草庵文化」と言っているのですが、いわば、草木で出来ていて造るのも壊すのも実に簡単なんです。しかし、ヨーロッパなどは、先ほど岩部会長が言われた「石の文化」ですから、とにかく頑丈で壊れない。壊れないこととの関連で金具などもしっかりしている。ドアは壁と同じですから、遮音性も耐火性能もしっかりある、ということになるわけです。リニューアルにも対応できる耐久性のある部品や設備がおのずと発達するわけです。

それから、壁という機能からみると、私はシャッターもドアも同じではないかと思っています。区別する必要はないのではないかと。そういう視点でとらえてみて、協会の進む方向性を考えてみてよいのではないのでしょうか。



### 「安全であり、かつ安心できるもの」とは

**岩部** ありがとうございます。本日は、大変広い観点から菅原先生にいろいろと御教示いただき、興味が尽き

ないところですが、そろそろまとめということのようですので、最後の話題として、昨年来、当協会でもうひとつの大きなテーマになっているのが防犯ということです。これはまさに「官」と「民」が垣根をなくして合同会議を設置して進めて来ていますが、逆にいえば、それほど防犯の問題が日本の社会で重要になってきたわけであり、安全・安心をどう再構築するかという大きな課題にいま直面しています。

また、安全・安心というのは難しい概念でもあって、例えば、住宅に絶対破られない窓シャッターを設置すれば安心ではあっても、消防が開けられないほど頑丈なものを付けたら、イザとなった時に安全とはいえない。そういう矛盾のような議論もあるのですが、その辺を含めていかがでしょうか。

**菅原** 防犯は深刻な問題になっていますね。かつてとは様相が違っていますから、取り組みは大変だと思います。

いま、お話のあった安全と安心ということですが、なかなか定義が難しいところが確かにあります。安心は、防犯上でいう安心ということと、それとは別の意味で、安全だといわれても自分自身でそのことを理解できないことによる不安感、これが解消されることも安心なんです。ですから、安全であっても安心できない、という問題もあります。

こういふことから、いろいろな安全基準をつくるときに、安心感をもってもらうようにその内容を表現しきることが必要なわけです。これは、法運用の重要な役割で、法のサービスアビリティでもあるのです。

これと似たような話ですが、よく技術基準などをつくる時に、難しい専門的な言葉を分かりやすく表現するといわれますが、実はあれは逆なんです。本来は、日常の言葉でいっていることを専門的に考えていくとどのような技術基準の文書を作らなければならないか、と考えなければなりません。それが逆になっていますので、しかも、よくかみ砕かれてもいないので、誰にとってもよく分からないものになってしまうのです。

法でも技術基準でも、国民の使う側から考え直してみる、という当たり前の話なのですが、実際にはあまりそうっていないわけです。

**岩部** 有難うございました。これからは自主基準化の時代ということで、当協会でも幾つかのものを手掛けていますが、基準づくりのあり方も、もう一度見直してみる必要がありそうですね。

本日は、貴重なお話をありがとうございました。

# エンドユーザーに、シャッターに関するアンケートを実施!!

今回のアンケート調査は、業界としては初めての組織的な試みとなり、全国をほぼ網羅する各地域の会員の皆様のご協力をいただいた結果、配布数1,060に対して回答数910、回答率にして85.8%という結果を得ることができ、大変有意義な試みになりました。その回答内容は高精度で、大変まじめに回答していただいたことがうかがわれ、調査に従事された各会員の皆様に深く感謝します。また、多忙な日常業務の中で、膨大な資料を短時日のうちに集計総括された事務局の御苦労にも敬意を表します。

企画委員会 シャッター部会長 森田 豊二郎

## <アンケート実施要領>

実施期間：平成15年7月20日から  
平成15年8月20日

調査対象：住宅（ガレージ、納屋、  
物置、倉庫）、店舗

調査方法：訪問聴き取り調査

調査地域：北海道、東北、関東、  
首都圏、甲信越、中部、  
北陸、近畿、中四国、  
九州、沖縄の11地域

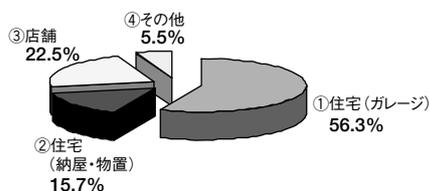
アンケート配布数：1,060

アンケート回答数：910（住宅：  
664件、店舗：198件、  
その他：48件）

アンケート回答率：85.8%

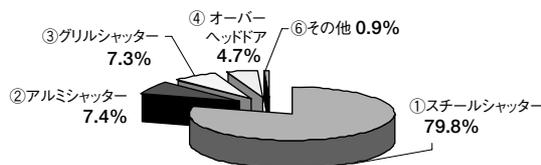
## 1. シャッターやオーバーヘッドアの用途についてお聞かせください。

- ①住宅（ガレージ）
- ②住宅（納屋・物置）
- ③店舗
- ④その他



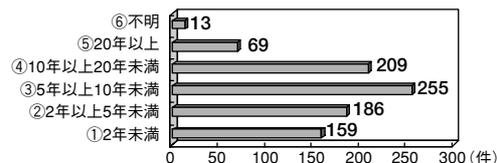
## 2. シャッターの種類についてお聞かせください。

- ①スチールシャッター
- ②アルミシャッター
- ③グリルシャッター
- ④オーバーヘッドア
- ⑤フォールディングゲート
- ⑥その他



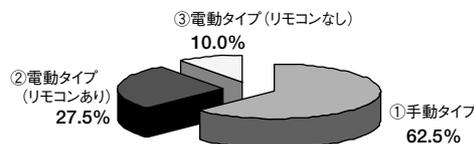
## 3. お使いになっているシャッターは、設置して何年になりますか？

- ①2年未満
- ②2年以上5年未満
- ③5年以上10年未満
- ④10年以上20年未満
- ⑤20年以上
- ⑥不明



## 4. お使いになっているシャッターは、手動・電動のどちらのタイプですか？

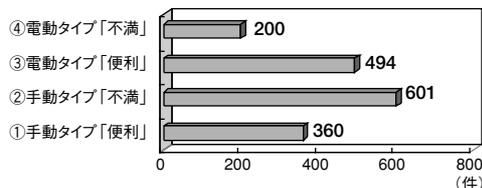
- ①手動タイプ
- ②電動タイプ（リモコンあり）
- ③電動タイプ（リモコンなし）



## 5. お使いになっているシャッター他の便利な点と不満な点についてお聞かせください。（複数回答）

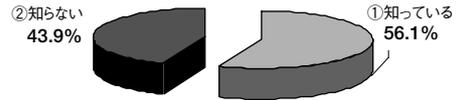
- ①手動タイプ「便利」
- ②手動タイプ「不満」
- ③電動タイプ「便利」
- ④電動タイプ「不満」

手動タイプで「不満」と回答されたうち、「音が大きい、うるさい」が40.9%、「操作が重い」が40.1%となっています。



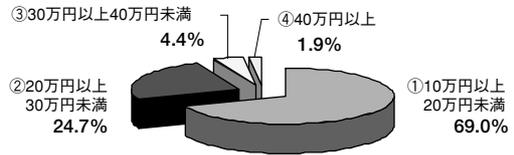
**6.電動シャッター（電動オーバーヘッドドア）について、  
手動でも操作できることをご存知ですか？**

- ①知っている
- ②知らない



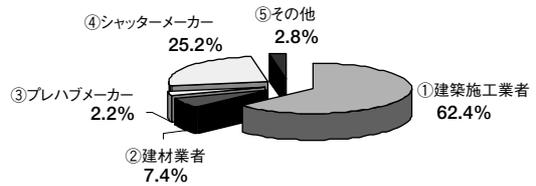
**7.電動シャッターにした場合、いくらであれば購入したいと思えますか？（間口2.7m、高さ2.2mの場合）**

- ①10万円以上20万円未満
- ②20万円以上30万円未満
- ③30万円以上40万円未満
- ④40万円以上



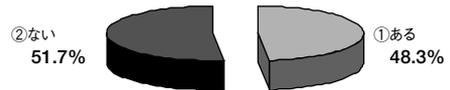
**8.シャッターの購入先はどちらでしたか？**

- ①建築施工業者
- ②建材業者
- ③プレハブメーカー
- ④シャッターメーカー
- ⑤その他



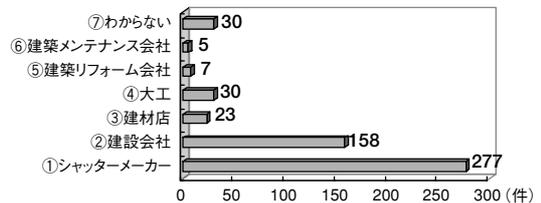
**9.シャッターが故障して修理を頼んだことがありますか？**

- ①ある
- ②ない



**10.シャッターの修理はどこに依頼しましたか？**

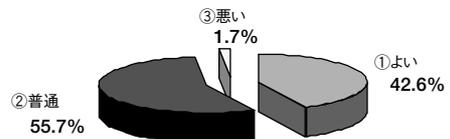
- ①シャッターメーカー
- ②建設会社
- ③建材店
- ④大工
- ⑤建築リフォーム会社
- ⑥建築メンテナンス会社
- ⑦わからない



**11.修理およびメンテナンスを依頼した際、対応についてはいかがでしたか？**

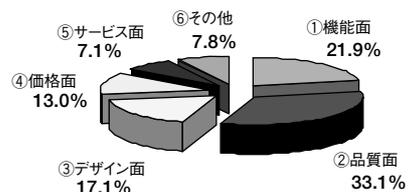
- ①よい
- ②普通
- ③悪い

「修理結果」については、「直った」が89.3%、「直らなかった」が8.4%、「自分で直した」が2.3%、という結果でした。また、「修理価格」については、「高い」が41.9%、「適当」が54.6%、「安い」が3.5%、という回答をいただきました。



**12.シャッター商品への要望がありましたらお聞かせください。**

- ①機能面の改善（操作性、安全性、スピード、防犯性、耐久性）
- ②品質面の改善（音、錆、汚れ、キズ、鍵、構造他）
- ③デザイン面の改善（色、形状、素材）
- ④価格面の改善（製品代、修理代）
- ⑤サービス面の改善（取扱説明、保守・点検）
- ⑥その他



# 大阪で初のJSDA会員交流会開催

2003年11月14日、大阪駅前の「ヒルトン大阪」において「講演会及び協会会員の交流会」が開催された。協会における交流会は2001年11月に東京で開催されて以来であり、第二回目は関西となった。

当日は、第一種、第二種、準会員、賛助会員等すべての会員層から総勢130名が出席し、大盛況であった。

会は、第一部が13時30分に始まり、冒頭のあいさつで岩部会長は、「平成12年12月12日に当協会は現協会名で改めてスタートを切った。日本シャッター工業会当時は会員数21社であったのが、現在では171社（11月時点）に拡大した。スタート当初は100社を目標としてきたが、一年足らずでそれを突破し、その後も拡大が続いている。協会のテーマも防災、防犯とさらに広がっているが、会員の皆様の期待に応えて、入会頂いたことの意義、また、ビジネスとしてのメリットを追求し合いたい。本日の会でも交流の輪を広げていただき、ビジネスチャンスにつなげてもらいたい。」と、交流会開催の主旨を交えて語った。

引き続き第一部の講演会として、当協会の大沼専務理事から「防犯対策と防火シャッター・ドア保守点検の推進について」というテーマで、①建築基準法の性能規定化②自主評定制度の導入③たて穴区画における防煙ドア自主的運用④保守点検の推進⑤防犯政策の現状…等々、協会活動の実際を示しながら約1時間にわたる報告があった。

その後、会は第二部の懇親会に移り、司会には、この会を計画立案した企画委員会・佐藤ドア部会長が当たった。

第二部では冒頭のあいさつを藤田企画委員会担当理事が行い、杉山製機（株）・杉山社長の乾杯の後、歓談に入った。

この中で、せっかくの交流会ということで、賛助会員の方々の自己紹介や、自社商品のPRの場面も設けてコミュニケーションを図った。

会場ではいたるところで名刺交換や情報交流の会話が聞かれ、時間はあっという間にたった。

中締めには、企画委員会・森田シャッター部会長が立ち、盛況に終わったことの謝意が述べられた。



▲上から、講演する大沼専務／藤田企画委員会担当理事／乾杯で挨拶する杉山社長／森田シャッター部会長



シリーズ：第2回

# 火災安全を考える

リスクマネジメントは  
コスト低減に役立つか



諏訪東京理科大学 教授 奈良 松範

## 1.はじめに

建築者（施主、設計者、施工者）は、建築設備は建物本体の付属品とは言わないまでも、造形や家具などと比較するとあまり注目しない傾向にあります。特に、建築設備の中でも防火設備はさらにマイナーな存在になっているように（これは偏見ですね）思われます。ここで述べたいことは、注目されないということは裏返せば費用をかけたくないということにつながります。換言すれば、防火設備は建物の中で最もコストパフォーマンスが高くなければならない部分であるということになります。すなわち、“性能が良い上に、安い”という評価を受ける必要があります。あるいは、潜在的ハイリスクをコントロールするためには、この防火設備の採用が不可欠であると判断してもらわなければなりません。

いずれにしても、防火コストは予測されるリスクおよびそれにより発生する損害額より低くなければなりません。そして、このコストダウンの成果は建築者を納得させるものでなければいけません。本文では、以上のような問題を解決するための糸口として、リスクマネジメント（Risk Management: RM）の考え方を利用してコストパフォーマンスの向上をわかりやすくプレゼンテーションするための方法を考えてみます。

## 2.リスクマネジメント（RM）の概略

防火分野におけるリスクマネジメントとは、火災を原因とする財産の滅失、人の健康・生命に対して起こりうるさまざまな危険（リスク）を低減し、火災が発生した場合にはその被害を最小化するための総合的な経営システムです。リスクを評価するリスクアセスメント（Risk assessment: RA）では、リスクの種類、発生確率、その影響、およびリスクを許容範囲に収めるための管理手法も検討します。RMを行うためにはリスクをマネジメントするための技術的な資源、経済性、社会による評価、コストベネフィット、コストパフォーマンス、そしてRMの運用状況を監視し、必要に応じてレビューを行い、フォローアップを行う必要があります。

技術評価では、技術の完成度、施工の容易性・確実性、維持管理の難易度、リスクの連鎖反応、そしてリスクに見合った対策であるか等について検討します。

経済性評価では、リスクを許容範囲内に局限するための技術、設備、専門家、道具、そして維持管理などにかかるコストを評価します。この場合、採算性が確保できる範囲で限界投資額が決定され、さらにリスクが増減することによる直接的・間接的な影響も加味します。

社会的評価では、社会的な倫理観に基づいて防火技術の評価しますが、主観的な要素が大きなウエイトを占めているため定量化が困難な場合が多い。不可欠なことは、常に社会との間にリスクコミュニケーションを維持することです。

つぎに、コストベネフィット分析ですが、これはコストパフォーマンスを経済的な観点からとらえたもので、RMで利用する手法が決まり、その技術的、経済的、社会的評価が定量化された後、これらを金額で表示すればリスク対策コストが得られます。ここで得られたリスク対策コストとリスクの回避によって得られるであろう期待損害額の低減（すなわち、ベネフィット）とを比較した場合、コスト<ベネフィットであれば、このリスク対策は採用されることになります。現実には、分析では見えてこない価値（感）や不確実性が存在しており、このように単純ではありませんが、一つの考え方として有効です。

## 3.リスクマネジメントによるコストダウン

RMによるコストダウンは、単純に考えればリスク対策によって得られるベネフィットからこれにかかるコストを差し引いた値です。ただし、ここで注意しなければならない点は、RAでは仮定された状況におけるリスクを評価していることです。RAにおけるシナリオでは、評価の目的、状況、使用条件などが設定されているためシナリオで考慮されていないリスクは評価できません。したがって、シナリオの作り次第でコストダウン効果が変わってきたり、実被害発生時に予想通りの効果が得られなかったりということもあります。

しかし、このような不確実性を認識した上でRMを利用することができれば、RMは経営上の有効な意思決定ツールとなります。そこで今後、防災設備を納入する場合、建築者の立場でリスクマネジメントを考え、性能およびコストの優位性を説明することにより、合理的に判断してもらうことが必要になるでしょう。ここで留意すべき点は、単一設備による効用は小さくても、複数の設備を組み合わせたり、共用したりすることによりシステムとしての性能は向上し、さらにコストダウンが可能になるということです。

例えば、施設の共用、要員・訓練・管理の協力、複数設備の有機的なリンク等が考えられます。この視点がブレークスルーになります。また、従来のRMでは維持管理による影響が過小評価されている例が多くあります。同じ防火設備であっても維持管理の状態により、その性能および作動確率が大きく影響されるにもかかわらず、これらが平均値として処理されているわけです。このあたりの問題も一考の余地があります。

## 4.さいごに

RMの考え方を利用して防火設備のメリットについてまとめようとしたのですが、どうも紙面が足らず具体的な内容には踏み込めませんでした。ちなみに、損害保険料率算定会の推定では、世帯における火災リスクは0.15%（1997）で、地震リスク0.03%に比べて5倍のリスクがあるとしています。統計的には、地震より火災の備えの方が必要であることがわかります。

さいごに、リスクは単独ではなく、さまざまなリスクが複合的に相互作用して、その結果として被害が発生します。また、これまでの火災事例をみても不適切な維持管理が被害を大きくした例はいくらでもあり、火災安全性の確保には維持管理が重要です。今回は、防火設備の維持管理をリスクコミュニケーションの重要な要素として捉え、火災安全性向上のための考え方を提案したいと思っています。

# 会員数が、12月現在で 177社に!

会員数が12月16日時点で177社となりました。  
当会報の2003年秋号で新会員をご紹介した時点では152社でしたが、この3ヶ月で25社が入会されました。

## ▼会員数の推移

会員種別	H13年 (2001年)	H14年 (2002年)	H15年 (2003年)	
	5. 31現在	3. 12現在	9. 16現在	12. 16現在
第一種会員	13	13	13	13
第二種会員	25	36	61	85
準会員	14	20	31	31
賛助会員	34	44	47	48
合計	86	113	152	177

## 新会員紹介

### 鯉城サッシュ工業株式会社 (第二種)

代表取締役 沖 常登  
本 社 広島県広島市  
設 立 昭和40年3月24日  
事業内容 鋼製建具製造販売  
(入会：平成15年11月常任理事会)

### 有限会社三栄産業 (第二種)

代表取締役 島袋 栄輝  
本 社 沖縄県具志川市  
設 立 平成9年7月1日  
事業内容 シャッター取付及び修理工事、鋼製建具の製造及び販売、取付及び修理工事、一般金属製品の製造販売及び取付工事、建築金物製品の製造販売及び取付工事  
(入会：平成15年11月常任理事会)

### 有限会社埼玉スチール (第二種)

代表取締役 馬場 忠助  
本 社 埼玉県川口市  
設 立 昭和55年10月22日  
事業内容 鋼製建具製造業  
(入会：平成15年11月常任理事会)

### サンワイズ株式会社 (第二種)

社 長 浅原 正敏  
本 社 静岡県静岡市  
設 立 昭和58年11月1日  
事業内容 設備用建具製造  
(入会：平成15年11月常任理事会)

### 株式会社オリエントメタル (第二種)

代表取締役 安島 敏男  
本 社 北海道北広島市  
設 立 昭和61年4月1日  
事業内容 鋼製建具製造  
(入会：平成15年11月常任理事会)

### 金秀アルミ工業株式会社 (第二種)

代表取締役 大城 英男  
本 社 沖縄県西原町  
設 立 昭和46年6月18日  
事業内容 アルミニウム合金の押出型材の製造販売、アルミサッシ設計施工、スチールドア設計施工、ガラス工事一式施工  
(入会：平成15年11月常任理事会)

### 旭物産株式会社 (第二種)

代表取締役 田上 敬  
本 社 富山県富山市  
設 立 昭和58年10月2日  
事業内容 建具工事業、板金工事業  
(入会：平成15年11月常任理事会)

### 株式会社ツカサ (第二種)

代表取締役 門司 辰生  
本 社 福岡県遠賀郡  
設 立 平成元年5月1日  
事業内容 鋼製建具製造販売、建築金物製造販売  
(入会：平成15年11月常任理事会)

### 株式会社亀谷 (第二種)

取締役社長 亀谷 勝裕  
本 社 富山県富山市  
設 立 昭和57年8月31日  
事業内容 鋼製建具工事業(スチールドア製造販売)板金工事業  
(入会：平成15年11月常任理事会)

### 有限会社しまけん (第二種)

社 長 中島 政美  
本 社 千葉県佐倉市  
設 立 昭和46年10月1日  
事業内容 スチールドア製造販売  
(入会：平成15年11月常任理事会)

### 株式会社ヤスモト (第二種)

代表取締役 安本 外晴  
本 社 埼玉県入間市  
設 立 昭和62年10月31日  
事業内容 アルミ建材製造販売・アルミ面格子・手摺等の製造販売  
(入会：平成15年11月常任理事会)

### 九州サッシ工業株式会社 (第二種)

代表取締役 芝野 英宏  
本 社 鹿児島県鹿児島市  
設 立 昭和32年2月1日  
事業内容 鋼製建具製造販売  
(入会：平成15年11月常任理事会)

### 日本鋼機工業株式会社 (第二種)

代表取締役 植松 哲  
本 社 静岡県沼津市  
設 立 昭和30年5月18日  
事業内容 鋼製建具設計製作施工  
(入会：平成15年11月常任理事会)

### 浜松サッシ鋼業株式会社 (第二種)

代表取締役 磯部 淳  
本 社 静岡県浜松市  
設 立 昭和36年5月1日  
事業内容 鋼製建具製造販売  
(入会：平成15年11月常任理事会)

### フジメタル株式会社 (第二種)

代表取締役 佐藤 兆史  
本 社 静岡県庵原郡  
設 立 平成7年3月1日  
事業内容 鋼製建具・軽量鋼製建具の製造販売  
(入会：平成15年11月常任理事会)

**近畿工業株式会社**（第二種）  
代表取締役 村嶋 正宣  
本 社 奈良県宇陀郡  
設 立 昭和36年8月1日  
事業内容 鋼製建具製造販売業  
（入会：平成15年11月常任理事会）

**ヨコタワークセンター株式会社**（第二種）  
代表取締役 横田 清和  
本 社 兵庫県姫路市  
設 立 昭和58年5月1日  
事業内容 金属建具製造  
（入会：平成15年11月常任理事会）

**中部アルミ工業株式会社**（第二種）  
代表取締役 加藤 允俊  
本 社 愛知県津島市  
設 立 昭和32年2月1日  
事業内容 アルミ建具及びスチール建具製造販売  
（入会：平成15年11月常任理事会）

**日光金属工業株式会社**（賛助会員）  
代表取締役 津田 忠明  
本 社 兵庫県姫路市  
設 立 昭和47年12月1日

事業内容 金属加工業及び制御盤設計製作  
（入会：平成15年11月常任理事会）

**株式会社一瀬製作所**（第二種）  
代表取締役 一瀬 勝美  
本 社 大阪府門真市  
設 立 昭和60年4月17日  
事業内容 ステンレス製建具（主にオーダー品、カーテンウォール、R円型サッシ、手摺、建築装飾金具の製作）  
（入会：平成15年12月定例理事会）

**株式会社日本モリテック**（第二種）  
代表取締役 森岡 寛一  
本 社 東京都港区  
設 立 平成8年4月  
事業内容 鋼製建具製造販売  
（入会：平成15年12月定例理事会）

**日章工業株式会社**（第二種）  
代表取締役社長 藤新 成信  
本 社 福岡県粕屋郡  
設 立 昭和38年5月20日  
事業内容 スチール、アルミサッシ製造  
（入会：平成15年12月定例理事会）

**寺岡オートドア株式会社**（第二種）  
代表取締役 吉田 敬  
本 社 東京都大田区  
設 立 昭和38年6月8日  
事業内容 建具工事業（自動ドアの卸・販売・施工、鋼製建具製造販売）  
（入会：平成15年12月定例理事会）

**関西サッシサービス株式会社**（第二種）  
代表取締役 山田 忠司  
本 社 大阪府茨木市  
設 立 昭和47年5月2日  
事業内容 鋼製建具製造  
（入会：平成15年12月定例理事会）

**株式会社面川建機製作所**（第二種）  
代表取締役 面川 栄四郎  
本 社 埼玉県川口市  
設 立 昭和41年5月19日  
事業内容 鋼製建具・建築金物の設計・製作・施工  
（入会：平成15年12月定例理事会）

## News

### 金剛産業(株)社長に 佐土原 剛氏



平成15年11月27日付けで、金剛産業(株)代表取締役社長に、佐土原剛氏が就任しました。また、同社代表取締役会長に、前社長の佐土原健一氏が就任しました。

### 3月2日から開催される 「JAPAN SHOP 2004」に協賛

3月2日から5日までの3日間、東京国際展示場（東京ビッグサイト）東4・5ホールにて、「JAPAN SHOP 2004（第33回店舗総合見本市）」が開催される。181社が出展する今回の「JAPAN SHOP」では、時代を反映した消費者が求める魅力的な店づくりのための最新情報を発信しており、商空間デザイン・ディスプレイ、店舗什器・設備、サイン看板など、店づくりに関する新製品や最新情報を一堂に集めて展示・紹介するとともに、流通業の活性化、暮らしやすい街づくり、活力のある店づくりの実現を目指した各種セミナーも同時開催している。当協会はJAPAN SHOP 2004に協賛しています。

# ご紹介

## 財団法人 ベターリビング



住宅のニーズが量から質へと変化しつつあった1973年に、財団法人住宅部品開発センターとして設立され、以来、住生活水準の向上を目的に、品質・性能及びアフターサービス等に優れた住宅部品の認定・普及を行う「優良住宅部品認定事業」を活動の柱とし、住宅に関する広範な事業を展開されている財団法人ベターリビングを訪ね、唐澤一雄 情報サービス部広報普及室長及び内田和広 新事業推進部事業推進課長にお話を伺った。

### ●設立の背景を教えてください。

戦後の住宅難の時代を経て、国の政策が住宅の絶対数を増やすことに重点がおかれ始めると、住宅の内側に備え付けるキッチン等についても、規格品として生産を行う必要が出てきました。こうした工業化の動きの中で、1960年に公共住宅向け規格部品（KJ部品）として、住宅部品設備の普及・促進を図るKJ制度がスタートしました。その後、住宅に対する要望が量から質に変わっていく中で、住宅設備機器に対しても多様化を求める消費者の声が大きくなり、適用範囲を公共住宅用に限定しているKJ制度だけでは限界が見え始めてきました。こうした背景のもと、全ての住宅を対象とした「品質・性能及びアフターサービス等に優れた住宅部品」を建設大臣が優良住宅部品（BL部品）として認定・普及する「優良住宅部品認定制度」が創設されました。

そして、1973年、(財)住宅部品開発センター（現ベターリビングの旧名称）が建設大臣の認可を受け設立。翌年、建設大臣から「優良住宅部品認定機関」として指定されたのを期に、「品質・性能及びアフターサービス等に優れた住宅部品」の評価を実施することとなりました。

1980年代に入ると様々な規制緩和を背景に、国が住宅部品の認定を手がけることに疑問視する声が出始め、国だけではなく産業界全体に拍車をかける意味もあって、1987年に「優良住宅部品認定制度」が(財)住宅部品開発センターに委譲されました。その年には同開発センターの「優良住宅部品認定事業」が、「建築物性能等認定事業登録制度」に登録されたことをきっかけに、今後、住宅設備を中心にさらに幅広い事業展開を図るため、1988年に「財団法人ベターリビング」に名称を変更しました。

### ●主な活動状況について教えてください。

当財団は、新しい時代のより良い住まいをめざして、次の6事業を実施しています。

- 1) 品質、性能、アフターサービス等に優れた住宅部品をBL部品として認定する「優良住宅部品認定事業（現在64品目が認定済み）」と、間取りや設備の変更がしやすく長期にわたって快適に暮らせる高耐久な住宅を認定する「センチュリーハウジング認定事業」。
- 2) ISO9001や14001に基づく審査登録業務をはじめ、建築基準法・住宅品質確保法に基づく指定機関として行う各種の性能評価業務や確認検査業務等。
- 3) BL部品に関する相談や情報提供を中心とした広報事業。
- 4) 住宅部品及び住宅全般に関する調査・研究、開発事業。
- 5) 住宅や建築に関する試験・研究事業。
- 6) 住宅部品に関する諸外国との相互認証の推進をはじめ、国際調和を推進する国際活動。

### ●現在の重点テーマについて教えてください。

品確法の施行により住宅の長期にわたる瑕疵担保が制度化される中、BL部品もその仕組みや等級等の整合を図ることが情報提供を行う上で必要不可欠となりました。そこで、新しい時代の要請に応えるため、2001年12月に今後の魅力ある住宅部品認定制度の運営を推進する「BL宣言2001」を策定しました。さらに、2002年には環境に配慮した住宅部品の開発・普及に努めるための行動規範である「住宅部品環境大綱」を、住宅部品の開発、製造、評価等にかかわる社団法人リビングアメニティ協会、環境共生住宅推進協議会と我々の3団体が共同で策定しました。

これら2つの考え方に共通することは、いかに環境への負荷を低減し、「持続可能な循環型社会」の形成に取り組むかということです。つまり、「安心で快適な住生活」をサポートするという現行のBL部品認定制度の考え方に、社会が要請する防犯やユニバーサルデザイン、ストック、リフォームなどの要素を加え、その特徴を全面に押し出した製品を開発すると同時に、一定の評価が行える試験基準を設けようというものです。そして、この「BL宣言2001」と「住宅部品環境大綱」に沿った事業を展開するため、2002年に新事業推進部を新設し、その体制づくりを整えました。

### ●現在、官民合同会議の防犯ドアについては、当協会とも連携した取り組みを展開されていますね。

「防犯性の高い建物部品の開発・普及に関する官民合同会議」を受けて、今年の3月には「防犯性能の高い建物部品の目録」が公表されます。われわれとしては侵入盗から一般消費者を保護していくために、住宅部品に防犯性を取り入れた認定業務を拡充していきたいと考えています。

### ●今後の方向性について教えてください。

安全、安心という概念は、個人ベースで捉えると多様化しており、一人ひとりの捉え方は違ってきます。そうした中で、今後、持続可能な循環型社会形成に貢献していくためには、アフターサービス、維持・管理、メンテナンスを重要なキーワードに「消費者啓発」を推進していくとともに、消費者ニーズと社会ニーズがオーバーラップする部分について、的確に対応していくことがわれわれの使命であると考えています。

### ●ありがとうございました。

#### ●概要

理事長 北畠 照躬

所在地 〒102-0084東京都千代田区二番町4番地5

(相互二番町ビル)

TEL:03-5211-0556 FAX:03-5211-0593(総務部)

# 統計データ

## ■過去1年間推移

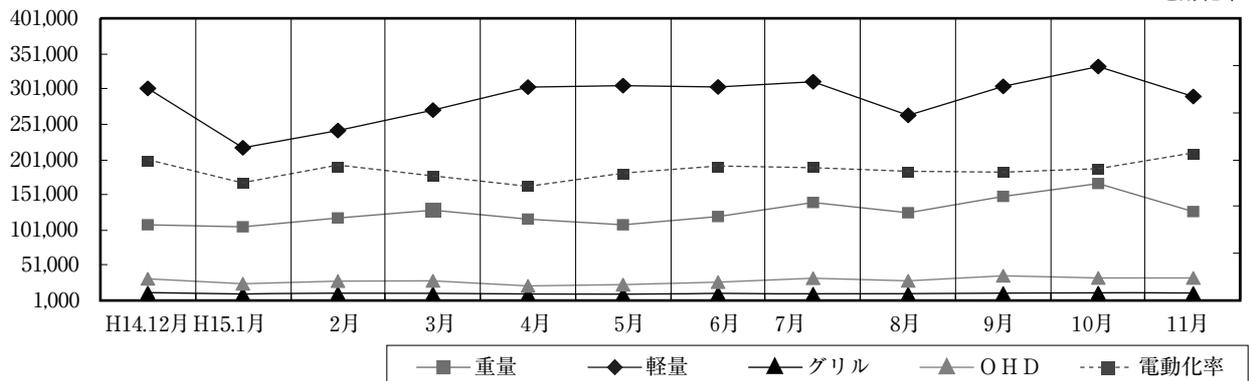
(㎡、前年比・電動化率%)

	H14.12月	H15.1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
重量	93,227	90,700	101,627	111,348	100,252	93,237	103,474	121,019	108,114	128,608	144,576	109,699
前年比	8.7	17.6	11.2	12.7	-2.7	-9.5	9.4	14.6	10.6	15.1	44.3	14.9
軽量	262,932	189,041	210,531	235,952	264,489	266,333	264,646	271,139	229,397	265,412	290,146	252,889
前年比	-5.0	-6.3	-6.5	-7.8	-10.1	-5.6	-0.4	-8.0	-8.8	0.8	-15.9	-14.5
電動化率	24.7	22.4	24.1	23.1	22.0	23.3	24.1	24.0	23.5	23.5	23.8	25.4
グリル	8,929	7,152	8,126	7,796	7,349	6,893	8,000	7,466	7,426	8,206	8,827	8,299
前年比	-7.9	-19.8	-14.3	-9.5	-7.3	-19.6	0.2	-22.0	-10.1	5.0	-8.7	0
OHD	26,016	19,982	23,164	23,494	17,209	18,912	21,973	26,709	23,482	29,806	27,138	27,069
前年比	7.0	-4.0	-2.6	-2.0	-12.9	0.4	3.6	-9.0	-9.0	7.3	-20.3	-9.7
合計	391,104	306,875	343,448	378,590	389,299	385,375	398,093	426,333	368,419	432,032	470,687	397,956
前年比	-1.4	-0.2	-1.8	-2.3	-8.4	-6.6	2.2	-2.9	-3.9	5.2	-3.7	-7.4

## ■種類別出荷生産推移

(出荷量) (㎡)

電動化率 (%)



## ■出荷数量推移 (4月～翌年3月累計)

(㎡、前年比%)

年度	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14
重量	1,746,321	1,967,278	2,001,243	1,936,939	1,676,527	1,524,206	1,707,897	1,737,110	1,775,359	1,574,810	1,286,780	1,492,832	1,097,308	1,208,205
前年比	14.2	12.7	1.7	-3.2	-13.4	-9.1	12.1	1.7	2.2	-11.3	-18.3	16.0	-26.5	10.1
軽量	5,418,308	5,635,219	6,019,965	5,288,063	4,843,331	4,677,685	4,544,678	4,730,120	4,195,575	3,896,089	3,732,420	3,487,158	3,333,097	3,190,771
前年比	1.4	4.0	6.8	-12.2	-8.4	-3.4	-2.8	4.1	-11.3	-7.1	-4.2	-6.6	-4.4	-4.3
グリル	151,206	162,194	147,597	134,198	118,814	103,601	108,744	114,051	111,020	103,457	108,042	114,744	103,625	101,043
前年比	18.5	7.3	-9.0	-9.1	-11.5	-12.8	5.0	4.9	-2.7	-6.8	4.4	6.2	-9.7	-2.5
OHD	433,882	475,487	482,527	462,639	430,393	383,865	417,438	464,464	435,581	368,259	328,943	343,957	303,293	299,460
前年比	10.4	9.6	1.5	-4.1	-7.0	-10.8	8.7	11.3	-6.2	-15.5	-10.7	4.6	-11.8	-1.3
合計	7,749,717	8,240,178	8,651,332	7,821,839	7,069,065	6,689,357	6,778,757	7,045,745	6,517,535	5,942,615	5,456,185	5,438,691	4,837,323	4,799,479
前年比	4.8	6.3	5.0	-9.6	-9.6	-5.4	1.3	3.9	-7.5	-8.8	-8.2	-0.3	-11.1	-0.8

# RESINO

レチノ

人と環境にやさしい

遮熱・耐酸性鋼板

レチノカラーGL

## 「オアシス」



JFE

川鉄鋼板 株式会社

本 社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3丁目1番9号(レチノビル)  
鋼板営業部 TEL 03-5255-9512 FAX 03-5255-9519

支 店：西日本・北海道・東北・名古屋・九州  
営業所：新潟・北陸・中国・岡山

<http://www.resino.co.jp>



### 三和シャッター

理想の環境づくりを目指し、  
新たなステージへ。

安全

三和シャッターは「ひと」中心の発想で  
環境づくりを追求します。

安心

快適

雨や風から守るシャッター、  
住まいやビルの中をやさしく仕切るドア、  
街並みに調和するファザード・・・。  
三和シャッターがお届けする製品の中心には、  
いつも「ひと」がいます。  
暮らしもビジネスも変わりつつある21世紀  
だからこそ、「ひと」を基本にした発想が大切。  
そんな想いを原点に、安全・安心・快適を追求した  
高品質な商品を提供し、時代に合わせた  
理想の環境づくりに取り組んでまいります。

住友金属

# 地球環境対応型鋼板



住友金属工業株式会社

お問い合わせ先

〒104-6111 東京都中央区晴海 1-18-11(トリトンスクエア)  
薄板営業部 TEL:03-4416-6333 FAX:03-4416-6359

〒541-0041 大阪市中央区北浜 4-5-33(住友ビル)  
大阪薄板営業部 TEL:06-6220-5590 FAX:06-6220-5970

## 住友の環境対応型薄板製品シリーズ クロムフリー表面処理鋼板

電気亜鉛めっき鋼板

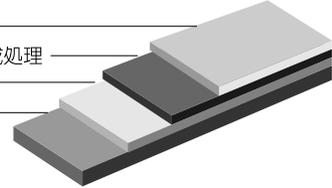
### スミジंकNEOコートT1

#### ■特長

1. 導電性と耐食性のバランスに優れた性能を有しています。
2. 耐型かじり性に優れており、金型寿命を向上させます。

#### 被膜構成

有機被膜  
クロムフリー化成処理  
電気亜鉛めっき  
鋼板



溶融亜鉛めっき鋼板

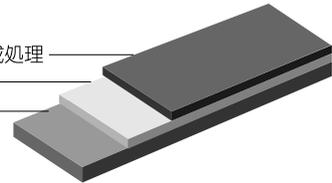
### タフジंकNEOコートK

#### ■特長

1. クロムを全く含まない特殊樹脂による新化成処理製品です。
2. 従来のクロメート処理表面処理鋼板と同等の性能を有しています。

#### 被膜構成

クロムフリー化成処理  
溶融亜鉛めっき  
鋼板



# ZAM

日新製鋼



日新製鋼は、<sup>ザム</sup>ZAMを通じて  
お客様の無限の可能性を拡げていきます。

※ZAMとは、<sup>ザム</sup>亜鉛-アルミニウム6%-マグネシウム3%のめっき層を持つ新しい溶融めっき鋼板です。

● 詳しくはホームページをご覧ください。 [www.nisshin-steel.co.jp](http://www.nisshin-steel.co.jp)

●建築基準法第37条第2号認定取得 ●日本住宅性能表示基準に従って表示すべき劣化対策等級(構造躯体等)の特別評価方法認定取得 ●建築施工技術・技術審査証明書取得 ●建設技術審査証明書取得(土木系材料)

日新製鋼株式会社

〒100-8366 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル TEL.03-3216-5166

お客様の商品開発・コストパフォーマンスをサポートする

## 新しい意匠鋼板

◆お客様のニーズ

コストダウン

高いデザイン性

脱塩ビ化

耐久性の向上

◆ご提案商品

TXハイカラー

外装用オレフィン鋼板

フールボンド

◆特長・用途例

テクスチャー感を有する高意匠塗装鋼板

〈用途例〉玄関ドア

非塩ビラミネート鋼板（エンボス・印刷柄ともに可能）

〈用途例〉玄関ドア・シャッターケース

20年保証メンテナンスフリーのフッ素ラミネート鋼板

〈用途例〉天窓枠材・住宅役物

※いずれの商品も、新日鉄の高耐食性新めっき鋼板「スーパーダイマ」を原板としてご採用できます。

 日鐵建材工業株式會社

本社 〒135-0042 東京都江東区木場2-17-2 意匠鋼板事業部門 担当：高坂（コウカ）、林

TEL03 (3630) 2157 FAX03 (3630) 2249 <http://www.n-kenzai.co.jp>



夢を動かす技術がある。

文化シャッター

## 美しいデザインと軽快な開閉が魅力のオーバースライディングドア 住宅用に進化して、すっきりと新登場です。

快適なガレージライフを演出する5つのスピリッツ

**S**美しい  
**STYLISH**

フラット面で構成されたアルミパネルは、  
これまでにない美しく、上品なフェイス・  
デザイン。

**S**速い!  
**SPEEDY**

巻取り式電動シャッターと比べると約3  
倍の速さ、さらに接触音・振動を低減。

**S**小さな納まり!  
**SMALL SPACE**

ヘッドルーム・サイドルームとも業界  
No.1の小さな納まりを実現。

**S**安全・安心!  
**SAFETY**

指はさみ防止と2重の障害物感知装置  
を装備した安全・安心設計。

**S**使いやすくシンプル!  
**SIMPLE**

軽くて薄いカードリモコン（セレカード）  
なら、車から降りることなく手元で操作  
が可能。

〈セレカード〉



住宅用オーバースライディングドア **NEW**

**フラットピット**

文化シャッター株式会社

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-13-14 TEL.03 (3968) 6666 ホームページ <http://www.bunka-s.co.jp/>

ヨドコウ

雨で汚れが落ちる! 雨筋がつきにくい!

# スーパーバリアカラーGL

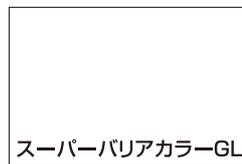
汚れんコーティング

ホコリや汚れがつきにくく、  
落ちやすい耐汚染性塗装鋼板。  
酸性雨・雪などに強く、  
長期にわたって美観を保持します。

雨筋汚染暴露試験(1年経過後)



一般カラー



スーパーバリアカラーGL

※地域により雨筋防汚は若干異なります。



写真はイメージです

スチール! & アイデア!  
**淀川製鋼**

本社 大阪市中央区南本町4丁目1番1号 〒541-0054 ☎(06) 6245-2671  
東京支社 東京都中央区新富1丁目3番7号 〒104-0041 ☎(03) 3551-1175  
<http://www.yodoko.co.jp>

## RYOBI 過酷な150万回以上の耐久性を突破する 最高峰ドアクローザ



ドアクローザ B3000V シリーズ

「本体カバー」(オプション)装着品

### B3000Vシリーズ

米国の最上級規格「ANSI A 156.4 GRADE 1」と、  
欧州の「EN 1154 (Part 1 を含む)」を取得。

#### 思いやりの機能を標準装備

##### バックチェック

強風などによる急激な開扉を制御しますので安心です。

##### ディレードアクション

閉じ始めのスピードをゆっくりにできるので、荷物の運搬時や  
車椅子の通行等に便利です。

##### トルク調整

階段回りや空調の影響を受けやすい電算室の入口など、  
環境に合わせた最適な扉の閉力を設定できます。

「くらしごこち」がテーマです。

リョービ株式会社

東京本社 〒114-8518 東京都北区豊島5-2-8 ☎03(3927)5533 <http://www.ryobi-group.co.jp/>

札幌 ☎(011)811-8232 仙台 ☎(022)237-6201  
東京 ☎(03)3927-5533 富山 ☎(076)493-2225  
名古屋 ☎(052)807-1643 大阪 ☎(072)685-1113  
広島 ☎(082)823-0028 福岡 ☎(092)623-5000

## 2004年1月6日に東京ビッグサイト多目的広場で行われた「東京消防出初式」



新春行事の一つになっている消防出初式の起源は、明暦3年（1657年）の大火を契機に、1659年1月4日、時の老中稲葉伊予守正則が、定火消総勢4隊を率いて上野東照宮前で出初を行い、氣勢をあげたことに遡ります。当時、焦土の中にあつて絶望的な状態にあつた江戸市民に、大きな希望と信頼を与えたことが契機となつて、定火消の「出初」は、毎年1月4日に上野東照宮で行われることとなり、次第に儀式化され、恒例行事となつて今日の出初式に受け継がれています。

（左上）木遣り行進（右上、左中）はしご乗り演技（左下）一斉放水・はしご隊演技

## JSDA会報 2004年・新春号

発行日：2004年1月15日 通巻第12号

発行者：社団法人 日本シャッター・ドア協会

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-10-5 第4NSビル10階

tel.03-3288-1281 (代) / fax.03-3288-1282

URL:<http://www.jsd-a.or.jp>